



鹿屋を拠点にしたプロのスポーツチームの想い

市長 今年は鹿児島で「燃ゆる感動がごしま国体・大会」が51年ぶりに開催されるということで、多くの方々の注目・関心が高まっています。そこで今回は、新春対談として、本市を拠点に活躍する2つのプロチーム関係者をお招きして、スポーツの魅力やかごしま国体・大会への想いなどを語り合いたいと思います。早速ですが、この鹿屋をチーム活動の拠点に選ばれた経緯やきっかけは何だったのでしょうか。

池田監督 もともとあったソフトボールのクラブチームを、かごしま国体に向けて強化していきたい、令和元年に行われた全国クラブ女子選手権で優勝しました。プロリーグ加盟の条件である「全国でベスト4」以内をクリアしたことがプロのソフトボールチーム立ち上げのきっかけになります。鹿児島でプロチームができれば自分たちの夢が広がるという想いから発足に至りました。拠点をどこにしようかということになり、鹿屋市はスポーツ少年団のソフトボールも盛んだということでスポンサーを探していたところ、ご縁があ



池田 一未 監督
強豪神村学園中等部での監督を経て、令和2年にキャッチャー谷川選手らとチームを発足。

若藤代表 鹿屋には、鹿屋体育大学があつて、その中で自転車競技部が数多くの実績を残してきました。その卒業生たちが競輪の道に進んだ

り、海外へ挑戦したりと様々なところで活躍してきましたが、地元鹿屋で選手たちの受け皿ができないかというのを考えてきました。鹿屋に自転車チームを作ればもっと地域が盛り上がるのではないかとという想いで、まず女子チームから発足したのがそもそもの始まりです。その後、平成28年のリオオリンピックで体大OGの山本さくら(旧姓:塚越)選手が日本代表として出場したのは記憶に新しいですね。

鹿屋は良好な道路環境に加え、温暖な気候など、自転車にとっては最適な地域なので、国内で有数の自転車の聖地として、今後飛躍できるのではないかとこの想いも込めてこの鹿屋を本拠地にしました。

新春対談

MORI ALL WAVE KANOYA
監督 池田 一未
キャプテン 領家 妃奈

CIEL BLEU KANOYA
代表 若藤 英二
キャプテン 富尾 大地

鹿屋市長

中西 茂

いよいよ10月開幕
かごしま国体大会への想い

いよいよ今年10月に控えた「燃ゆる感動がごしま国体・かごしま大会」。今年の新春対談は「国体」をテーマに本市を拠点に活躍されているプロスポーツの2チームを招いて、競技の魅力や国体への想いを語っていただきました。



若藤 英二 代表
CIEL BLEU KANOYA を平成27年に設立。鹿屋体育大学OBで当時は棒高跳び選手として活躍。

市長 両チームとも地元で活躍するスポーツを作りたいという想いで、恵まれた環境にある鹿屋を選んでいただきうれしく思います。今日は選手の皆さんも来ていらっしゃいます。毎日練習

演じたと思いますが、日々の練習や生活などはいかがでしょう。

鹿屋で暮らすプロスポーツ選手の日々の暮らし

富尾選手 僕たちは普段は個人練習で、週に2回チーム練習を行っています。自転車は練習時間も長く、多い時には200km走りますが、大隅半島はとても練習しやすく、沿道でも声をたくさん掛けてもらえるので、市民の皆さんに支えられながら走れているんだというのがいつも感じています。練習では道路を走るロードレースと専用の競技場を走るトラックレースの両方を走っていますが、長い距離を走る力に加え、短い距離でスピードを出す瞬発力も必要なので、普段から総合的な練習を行っています。

市長 いい結果を残すためにはただ練習するだけではなく、日常生活でも色々とお気を付けることが多いと思いますが、いかがですか。

富尾選手 現在、スポンサーである「株式会社 明治」様に栄養指導をしてもらっています。よくスポーツ選手はプロテインを飲むイメージがあると思いますが、プロテインの摂取だけではなく食事調査を行い、脂肪